愛車とモービル機遍歴（前編）　　JA1WOB 齋藤章

BS 日テレで毎週土曜日に「おぎやはぎの愛車遍歴」と云う番組があります。
芸能人の愛車遍歴を基に、昭和の旧車が出てくるので楽しみに見ています。
そこで、私の愛車遍歴とモービル機の遍歴を紹介します。

1969 年の夏に普通自動車の運転免許を取得して、翌年には中古の２年落ちサニー1000 を購入しました。エンジン：A10 型 OHV　988CC　56PS
暫らくして車通勤を始めて会社の駐車場に車を止めると、長いモービルアンテナを付けた、車が何台か駐車していました。
当時、オーディオと通信機を製造していた、某スタンダードなので、モービルハムが居ても不思議は有りません。
私も早速、秋葉原へ行って、スプリング基台と 1.5mのホイップアンテナを購入して、バンパーに取付けて 50Ｍｈｚのモービルを始めました。
会社の駐車場に駐車しているモービルは５１Ｍｈｚのｆ Ｍを搭載していました。
当時の無線機は、60Mhz 帯のタクシー無線を改造したものや、極東電子のＦＭ－１０Ｃなどが使われていました。
タクシー無線の改造品は、本体はトランクに入れてコントロール BOX をダッシュボードに取付ける方式でした。
本体は真空管式で、ＤＣ／ＤＣコンバータ付きなので長さは 50ｃｍ位ありました。それに比べればＦＭ－１０ＣはＴＲ終段のコンパクトな無線機で時代の先端でした。
私の無線機はＴＲ－１０００のＡＭのモービル運用でしたから、モービルの相手局も少なく、ローカルの固定局とＱＳＯする程度でした。

写真は日光の金精峠で休憩した、サニー1000 残念ながら、ANT はススキに隠れて見えません、この時に日光市内を走行中のホイップアンテナを付けた同じサニー１０００を見つけてアイボール後にＴＲ－１０００同士で QSO できました。

【サニー1000 に車載した TR-1000】

1971 年に２代目サニー１２００に乗換ました。
エンジン B110 型 OHV　1171CC　68PS

この頃になると、モービルのハム人口も増加して、50Ｍｈｚより伝搬の良い144Mhz に移りました。
無線機は、社内販売で割安で購入できる、SR-C806 もありましたが、トリオのTR-7100 のブラックフェースにしました。

当初は、ルーフサイドに 1/4λ のホイップアンテナを付けていましたが 5/8λ アンテナが FB と聞きつけて、起業したばかりのミズホ通信が町田にあり、グラスファイバーでコーティングした 5/8λ のモビホを取付けました。

この写真では、ホイップアンテナ付いていません。
登録ナンバーが偶然にもナント・セブン・スリーです。
ハム仲間とのモービル同士の移動が多くなりました。
町田市内を走りながら東名高速の小田原あたりとメリット５で交信出来たのは、驚きであり、50Mhz の伝搬より FB でした。
また、当時は水晶発振の 12 チャンネル位が標準でメインチャンネルも、144.48Mhz のころです。ＪＡＲＬのチャンネルプランも定まって無くて、クラブチャンネルとか称して 145.90 などの高い周波数や 144.04 とか低い周波数の水晶を特注して、仲間同士の連絡用に使っていました。

結婚して、２ＮＤも生まれてサニー1200 の２回目の車検の１９７６年頃に、三菱のランサー1200 に乗換ました。
当時のランサーは世界各地で行われたラリーに優勝したＣＦがＴＶで流れていて憧れの車でした。1200CC の SOHC エンジンで排気量も 1238CC

で 70PS の 1200 オバーの排気量も気に入りました。
また、このランサーで初めてエアコンを取付けて夏には快適ドライブが出来る様になりました。

実車の写真が我がアルバムから見つからず、ネット検索で見つけた同じブルーのランサーです。
この頃は無線機の常時搭載はなく、会社の社員旅行の時などに、仮設したアンテナ基台に、144MhzＳＳＢ機のライナーⅡを積んで連絡用に使っていました。
144mhz の SSB で 5/8λ のモ-ビルホイップだったので、20ｋｍから 30ｋｍ位離れても、問題無く交信出来ました。

これに気を良くして東大和市と羽村市の通勤モービルを開始しました。
しかし、某計算機会社の同僚との交信が主でしたが、240 グループの様にアクティブでは無く、移動運用をして多くの局と交信する事は有りませんでした。

1980 年になるとモデルチェンジしたランサーEX1400 に乗換ました。
エンジン：G12B 水冷式直列 4 気筒 SOHC 1,410cc 80 PS

無線機は、ライナーⅡを必要に応じて乗せていました。
この、ランサーEX まではルーフレールがあったので、アンテナの取付け基台は苦労せずに、取付ける事が出来ました。
しかし、この頃は仕事が忙しくてほとんど、ＱＲＴの状態でした。

それでも、ライナーⅡを積んで、このランサーでは遠距離ドライブを良くしました。
写真は、XYL の実家である岩手県に行った時のものです。東大和の自宅から 600ｋｍあり 8 時間位を運転しても平気でした。若かったですね。
東北自動車道を飛ばして、３月、５月、８月と年３回も往復した事もありました。
１９９０年にＱＲＴから目覚めて再開局となります。
そして、５０．２４０ＳＳＢモービルグループに参加する事になります。

後編へ続く。